

持続観光構造の地域化と観光持続機構の地球化
— 日本型総合指標システムの有意性と国際認証の有効性 —

宮 川 泰 夫

Regionalization of Significant Contemporary Tourism Structure
and
Globalization of Effective Tourism Sustainability
To overcome the Human & Natural Crisis

Professor Dr. Yasuo MIYAKAWA

皇學館大学現代日本社会学部

日本学論叢 第11号

令和3年3月

持続観光構造の地域化と観光持続機構の地球化

— 日本型総合指標システムの有意性と国際認証の有効性 —

宮 川 泰 夫

抄録 ●

観光は、時空の構造と時流の機構が有意性、有効性を、左右してきた。現代観光学は、観光業、観光地、観光者、観光源の4面で、物資交換を超えた厚環アクティヴィストの価値交換で、地球、地域の次元、場所を変換させ、有意な風土文化、教育と、有効な厚生、環境の相互連鎖で現代の実践科学的実効課題と理論科学的実証問題を解明・解決した。これは、両極地やニュージーランド等海洋諸島に地域住民共有の英知と倫理が培った風土文化を超え、自然の叡智、摂理を幹に相生の文化で地球人類の文明を相生し、持続観光構造地域化・観光持続機構地球化の饋還で、根源的現代観光学の課題を解明し、風水土の問題を解決し、価値を創成した。

日本では、1970年の水質汚濁防止法、73年の瀬戸内海環境保全臨時措置法を享けた78年の瀬戸内海環境保全特別措置法を深め、2015年に更に改正させた。欧州では、1973年の英国・アイルランド・デンマークの拡大 EC 加盟、東西独逸国連加盟、第4次中東戦争、石油危機に加え、WHOの1981年天然痘根絶宣言翌年の欧州価値調査で、国際認証有効性を自然の叡智、摂理の価値観で高めたと言えよう。1987年には、デンマークがブルー、グリーンエコノミービーチ環境認証制度を法令改正と持続観光構造地域化の住民運動で高め、観光持続機構地球化の防災、防疫、防衛上の課題解明を迫るクルーザー等大量集団観光問題を1994年に20世紀最大、852名のバルト海難事故で体得した。日欧の海陸景観、国家創成と国立公園等が励起した場所は、水土に適合した日本三景の日本型総合指標の有意性に加え、大気、大洋、大陸の安定、安全、安心の理論、推計科学の発達による国際認証有効性を顕した。日本海沿いの丹後天橋立大江山国定公園、瀬戸内海国立公園に浮かぶ厳島、琵琶湖、東西文化相を超え、鄙の陸奥の太平洋に面した松島を日本三景に誘い、国際認証有効性を養い、風土文化の日本型総合指標の有意性を顕し、持続観光指標の真正を強めたと言える。

Key words : 持続観光構造地域化と観光持続機構地球化, 地域主導と国際認証,
流域定住圏と定住自律圏, 突然崩壊と緩衝構造・可逆機構,
相生の文化と文明の相生

I はじめに — 現代観光の本義と持続観光の本旨 —

1) 観光の構造と持続の観光

観光は、土地の視察、風光の見物を根幹に、観光者を魅了する観光地、交歓価値を錬磨し、観光者、観光地双方を充足させる観光業、観光源を磨き、時機に応じた交歓価値を創成した。主体の観光者価値観は、客体の観光地内包価値に応じ、GSTCは観光業を活し、観光源に付加価値を付け、その観光地接遇環境励起で創値し、観光者を魅了した。

饋還増幅・減殺関係は、持続観光構造地域化の総合科学指標の有意性、観光持続機構の国際認証有効性に共通の風土文化、法令慣習、産業地域連関、結合・自働・分担・経路(CASE)の綜合理論を深め、実効実証を促し、1998年には、世界遺産委員会に、定期的モニタリング義務を課した。

地域、地球、住民、人類を超えた観光価値は、史跡、名勝の風光を放ち、風格を高めた。観光地は、観光源を錬磨し、観光業を革新し、内外の観光者を吸引し、地域を超え、観光源を連動させた。この地球化は、現代観光を変質させ、大地、大気、大洋変動を機に、緩衝構造、可逆機構の突然の崩壊、有事の根源的壊滅を産む。地震・津波や乾燥山火事に加え、内外観光の大規模・広域化、高尚・集団化の軋轢は、1912年4月14日夜中の英米間の豪華客船タイタニック号の冰山衝突、1513人死亡の処女航海の海難を覚醒させた。

2020年2月19日横浜港寄港の17階建乗客乗員3700人の大型クルーザー、ダイヤモンドプリンセス号は、中国武漢中核のコロナウイルス防疫体制不備をうかがわせた。これは、世界遺産大国の内外の観光公害を超えた観光崩壊、持続観光構造地域化と観光持続機構地球化の限界を露呈した。

人間の英知、倫理を超えた自然の叡智、摂理を重んじた観光地の風格の滲む総合指標の重要性の体験、体感、体得、体現は、有意な理論的総合科学を踏まえ、防災、防疫、防衛等、有事の実効的実践科学の国際認証具体化の道程を拓き、モニタリングで指標の真正性を高めた。

有意性の高い地域型総合指標システムは文明の時流に合致し、地球規模の有効性の高い国際認証は、時空の場所に適合した。これは、宇宙の視座、GIS等

の先端技術と急変即応の緩衝復興構造余地，可逆革新機構余裕認定の推計精緻化を齎した。

これに先立つ第二次世界大戦末期の東海東南海地震は，2011年東日本大震災同様，有事の津波で明け，律令制崩壊の清和天皇の貞観（859～76）時代の治道を想起させ，緩衝時期，可逆余地への関心を高めた。

国際認証では，国際慣行を受容する人間の英知，倫理を超えた自然の叡智，摂理，風土文化が人類に放つ風格の理論的意味，国際機関の実効的意義を覚醒させてきた。

2) 国際運動の時流と国際法令の時空

国際法令は1954年ハーグ条約の如く，平時，戦時を超えた持続発展構造，革新持続機構不備の有事で，統御主体に加え，客体連携，地域主導の現代社会共同体の風土，風習の下，理論的総合科学の有意な地域型総合指標の共通認識，日本三景等の実効的实践科学の国際的有効性実感の要を産み，文化を深め，文明を開いた。

地域，住民規模を超え，地球，人類の防災，防疫，防衛等の有事には，次元，場所の根源的変換で，現状復興を超えた次世代の革新構造，可逆機構を築いた。10年を経た東日本大震災では，中央日本グローバルメガロポリス変革と縁辺のフロンティア陸奥間の復興局管轄域の計画目標と革新予兆，即応的緩衝構造と持続構造の総合指標有意性と可逆機構の国際認証有効性が，オリンピック延長，パンデミック終結を人類に促した。

強靱，賢明な生活，生産，流通，接遇の社会基盤整備と連携の順序は，縁辺を革新し，初期の復興目標を変換させ，真正革新路線を定め，持続観光構造地域化と観光持続機構地球化を整合させた。2019年の八戸・相馬間のみちのく潮風トレイルの全線拠点センター建設は，縁辺の陸奥と首都の東京を結ぶ復興道路を杜の広域中心都市，学都仙台の接遇環境に，中心都市圏の交歓価値，現代文明を拓いた。

杜の学都仙台都市圏は，連動，連携，連結，連帯の海陸空の情報交通交易交歓体系を育み，北上川流域定住圏河口港湾都市，三陸復興国立公園南端定住自

立圏の自律地方都市復興の可逆革新機構を動かした。これが、ギリシャのオリンピックから自衛隊松島基地へのコロナウイルス疫病が広がる地球を超え、東京オリンピック2020の聖火を、東日本大震災と原子力発電所複合災害に苦しみ、1997年に開設し、2011年から13年の全面閉鎖後、18年に部分再開したサッカーのJビレッジに運び、2020年に東京オリンピック聖火ランナースタート地点に転換し、延期に合わせ、21年に現代地球文明開化の炎を再び灯す運びとした。

持続観光構造地域化と地球化した観光持続機構は、急激な構造、機構崩壊の中、緩衝構造余地と可逆機構の余裕を即応させ、地球、地域の自立再生の焰を広げた。

持続観光構造の理論的総合科学の地域的指標の有意性と観光持続機構の実効的実践科学的国際認証の有効性の同期・相乗は、即応的危機管理を超え、構造、機構連携で本源的防疫、防災、防衛を促した。

日本型総合指標は、1854（嘉永7）年の安政南海地震津波時の濱口悟陵の主導した稲村の火に象徴される風致に根差した防災風土文化、即応力を高めた硬軟の防災文明開化、国際認証の有効性を活かした海陸を結ぶ防災教育に源を持った。

仙台湾でも海陸の循環構造と治水、利水、環水、共水の治・利・環・共の活水風土が、1級河川名取川支流碁石川の390haのダム、1200kw発電所と近辺の笹谷や金山温泉等を振興し、蔵王国定公園の名峰を映し、桜並木と高速道路で結ばれた1970年開設の特定多目的釜房ダムに都市公園法に基づく、国土交通省管轄の国営陸奥杜湖畔公園を開かせた。これは、自然公園法に基づく、環境省指定の29の国立公園に準じ、都道府県管轄の景勝地、56の国定公園を、広域中心都市と連携し、前論の高浜市の如く、公園活用の現代都市の観光革新で自然の叡智・摂理を醸した。

観光地、観光者、観光業、観光源の統御主体間の交歓、交流活性化は、持続観光構造地域化、観光持続機構地球化を促し、地域、広域を超えた日本観光勃起の指標システムを築かせ、観光持続機構地球化を促す国際認証の有効性を高め、自然の叡智、摂理の発現で、自然文化の世界遺産の苗床、作業指針、指標を培った。

持続観光構造を築く現代観光地の日本型指標システムと観光持続機構を励起する有効な国際認証は、結果的に東日本大震災被害と同期化した、2011年指定の平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺産群、公園類型を指標に世界自然遺産、文化、複合遺産の理念で一閑遊水池とバイパス道路建設計画変更、吉野を想い、西行の詠んだ東稲山櫻を媒体に、北上山地背後に宇宙、地殻の視座で人類の地球都市の持続観光構造、観光持続機構を築き、総合指標を国際認証した。

国宝中尊寺金色堂，特別名勝毛越寺庭園，特別史跡中尊寺境内は，毛越寺境内鎮守社に，無量光院跡，観自在王院跡，金鷄山を加え，東稲山の櫻と一閑遊水池に來世，現世，前世を結び，時流を超えた現代浄土の時空を拓いた。この観光持続機構は，北上川支流の巖美溪と猯鼻溪を両翼に，南東の黄金海岸，北西の黄金街道を従え，義経北行伝説を後背地の廻船寄港の石巻等河口港に持続観光構造を広げ，観光持続機構を深めた。日高見国の定住自律圏を内包した第三次全国総合開発計画では，北上川流域定住圏，岩手県北上川流域地域基本計画を産み，地域的日本型総合指標で有意な持続観光構造を培い，2020年の釜石グリーンデスティネーションで7月の東北，中部，九州豪雨防災，コロナ防疫の地球規模国際認証の有効性を作業指針，基準に革新し，適用した。

杜の学都仙台の交流人口増加は，明治維新に伴う国土構造，機能集積機構と係り，国土縁辺の札幌，福岡の広域中心都市機能革新，米国東岸の国際メガロポリス，五大湖の世界メガロポリスを超え，太平洋岸中央日本に対する西岸地球メガロポリスのアジアガシティリンクと連動，連繫，連帯した重みを示した。

国際持続観光構造と共鳴した日本型指標システムの有意性は，欧米の観光持続機構の国際認証有効性と共振し，地球初の被爆都市広島・巖島と対峙し，更に，四国88箇所寺巡礼での清浄精神と共鳴し，瀬戸内海環境生態汚染を浄化した。古事記，日本書紀以来の宗像三女神は，平成29（2017）年の世界遺産神宿の島，沖の島，宗像，国譲渡の国宝出雲大社，背後の大山を拝する東の美保の関に対した西に御崎海岸を配した大山隠岐国立公園を介し，平成8（1996）年世界遺産指定，日本三景巖島を布石に大和朝廷形成神話の積重ねで，次論で明らかに

する如く、観光持続機構の国際認証の有効性、日本型総合指標の有意性を高めた。

文化伝播と伝播回路は、持続観光構造地域化、観光持続機構地球化に深く干渉した。民族信仰を超えた神道確立を覆い、印度・中国・朝鮮を陸、海路を経て日本に根付いた仏教は、太平洋、大西洋を介した印度洋の象徴、スリランカに持続観光構造の総合科学指標と観光持続機構のローマ人から日本人町展開に至る国際認証の有効性、民族移動と定住、植民地と宗主国、日本人と外国人の地理上の発見で葡萄牙・西班牙間の1494年のトルデジュリアス条約と1520年のサラゴッサ協定での世界分界協定を確立させ、キリスト教文明を基層に仏教・イスラム教等宗教民族運動に触発された、重層的共棲を齎した（宮川2018）。

表層的政治経済を超えた有意な総合指標と本質的社会文化を併呑した有効な国際認証は、変動する文化、文明路の交歓による創値で生み出された。この東西の基幹が13世紀末のマルコポーロの海陸行路、1405年から33年まで、南海を7度訪問した鄭和（1371～1434）の攻略、1666年の和蘭を破った明の鄭成功の実効的実践の時流を想起させ、持続観光構造地域化と観光持続機構地球化の共鳴・共振で、ハンバントッタ港での国際的住民運動と同期化した国際・地域住民の塩造りでの持続観光構造地域化の自律総合指標の有意性と観光持続機構自立の国際認証の有効性を高めた。

1975年開設の国連世界観光機関の地球規模調査での2002年異常降雨水害と1987年の6基準充足でのヴェネツィア市域全域世界遺産指定は、1993年の法隆寺地域仏教建造物に続く、98年の古都奈良の指定文化財指定と異なる単一管理機構の持続総合指標での真性の意義を示した。日本でも持続総合指標は、線状降水帯等構成指標相互の共感、共鳴、共同、共振の同期、統御機構励起を要とした。持続観光構造地域化の深化と観光持続機構地球化の同期、相乗は、国際認証有効性を前提に急激な崩壊回避余地を持った緩衝構造、余裕を持った可逆機構重合を可能とした。

1級河川の総合治水協定は、人工知能活用、洪水抑制、風格風致育成、世界遺産や国立公園指定、管理、国定公園、都市公園拡充、法令制定、慣行実践、民間のジオ、エコパーク、トレッキング、カヌー筏等の時流、時空、場所、次元に応じた有意、有効な日本型指標選択の鍵を示し、先行産業地域構造と地域

在来産業構造の緩衝の余裕が、可逆革新機構の作動、国際認証有効性を高めた。

在来産業地域構造地域化の余地と先端産業革新機構地球化の余裕の同期化は、交歓、創値を促す持続観光構造、観光持続機構を活性化し、地球規模の国際認証の有効性と地域規模の総合指標の有意性を高め、地球地域の持続発展構造と発展持続機構の饋還増幅を齎した（宮川、2019）。

Ⅱ 地域の場所と時代の時流

1) 有意な地域化と有効な国際認証

持続観光構造地域化は、現代観光の交歓を活性化する場所の構造を有意な総合指標で制御し、地域化と地球化の饋還増幅を促す有効な国際認証の機構的余裕を拡大し、現代文明開化相生の源泉を噴出した。

現代は、宇宙計測機器と AI 計量科学の発達で、持続観光の価値交歓の余地と余裕が、清らかな風致、豊かな風水、風土を育んだ。

この有意性の高い総合指標は、持続観光構造地域化の帰結で、観光持続機構の余地と余裕の構造・機構を産み、国際憲章、国際宣言、国際条約、国際慣行の一般化が国際的認証有効性を高め、観光持続機構地球化を円滑にした。

マイクロプラスチック海洋汚染からバイオプラスチック廃棄物増大の緩衝構造に至る陸海の観光公害は、緩衝構造創成、可逆革新機構作動の転機を生み、清水、清海、手水をアイコンに観光持続機構地球化の饋還、禊の水土を深めた。抑制、抑止の地域住民運動に加え、自然塩増産等、有効、有益な地球規模の文化社会運動は、持続観光構造地域化、観光持続機構地球化、人類の住民運動連帯を温室効果ガスの2050年のゼロエミッション達成に向け強めた。

これは、スリランカ（宮川2018）の如く、境界帯での地球地域の交易、交歓の交通、情報の交錯点変換だけでなく、縁辺津軽の外ガ浜（宮川2016）や陸奥の県都青森での青函連絡船に代わる新幹線開設、大規模クルーザー就航、東日本大震災復興での交通、情報交錯構造変換、石炭火力、原子力発電、メガソーラー等地球環境・地域エネルギーの基地変質と革新萌芽を2019年の豪雨崩落事故での伊東市設置許可条例の如く、持続緩衝構造と可逆革新機構並存の有意な地域型総合指標に加え、2020年のグリーンデスティネーション百選釜石が触発

した北の青森や南の石巻の有効な国際認証基準採用で、清浄・安全な持続観光構造、観光持続機構崩壊防止の転機を顕し、内外の意図的風評被害を正し始めた。

クルーザー大規模化、コロナウイルス疫病蔓延等は、防災、防疫、防衛の保険理論、保証の実践・保安の実効を組み込み、時流に留意し、根源的破綻回避を模索させた。

地域の場所と時代の次元の合致は、地域型総合指標有意性と地球型国際認証有効性の共鳴で、持続観光構造地域化と観光持続機構地球化を同期化した。自然風致と風土文化を媒体に自然の叡智と摂理を受容する現代持続観光の各面の自覚と自律は、自主、自由の地域化の余地と地球化の余裕に適合した深化、伸展を促し、国際認証の有効性を向上し、地球、地域の自然、人類を順化させた。ここでは、科学的綜合理論に基づく指標の有意性と国際慣行・条約の実効的国際認証の有効性を修正し、計測、計量科学を活し、交歓、交流の場所と次元の乖離と時差を埋め適正化した。

この有効性は、価値の交歓を促し、地球の障壁を乗り越え、照明放水、防災調整等ダム観光、治水協定を伸展させ、情報、金融、中枢、管理に加え、厚生、環境、文化、教育の障壁を超える持続観光地域化の総合指標の有意性を高め、適正に理論的地球地域持続観光構造を広げ、実効的地域地球観光持続機構を創成してきた。

戦時・平時の防衛、治安と有事の防災、防疫の緩衝構造や可逆機構の強靱性や明敏性を備えた共同体、地域社会の余地構造と余裕機構の附加、風化は、広域、全国、国際、世界、地球で、持続観光構造地域化総合指標の有意性を高め、国際認証の有効性を向上させ、饋還を増幅した。

平泉の東稲山の桜並木や史跡・名勝の風格は、国際認証の有効性を饋還増幅し、中間の媒体の遊水地や義経北紀行伝承、中世農村景観の菅江真澄遊覧記「かすむ駒形」（1786、天明6年）の生活、生業、生態、生存の紀行文がこの媒体をなした。

この風格は、平安浄土を理想に藤原清衡発案の紺色金銀字交書一切経完成に功績のあった嘉永2（1107）年建立と伝承された大長寿院自在坊蓮を保安3

(1122)年建立の中尊寺経蔵別当に任じ、維持し、費用を願う骨寺村を莊園とした骨寺の風致を天治元（1124）年に金色堂を建立した平泉と連動、連携し、都鄙を超えた持続観光構造地域化の総合指標の源を培った。

この日本型総合指標システムの有意性は、仏神、在家の東西北境界検証対象となり、平成7（1995）年重要文化財認定の陸奥の国骨寺村絵図が有効性の確証を高めた。

理論的综合科学の総合指標検定は、絵図での骨寺廃寺、堂社、田屋敷の散村景観の有意性を高め、陸奥国骨寺村調査委員会は栗駒、須川正面の磐井溪谷沿いの馬坂新道を東西基軸とした。この堂社、岩屋指標の9地区は、平成17（2005）年に多様性保護促進の景観保全農地整備原則、稲刈り体験学習での景観保全風土文化熟成、翌18（2006）年の文化財保護法指定で、多様な8つの重要文化的景観を組込んだ仙台藩領の生産生活景観の実践科学的実効性、国際認証有効性を高めた。総合景観では、前年認定の石見銀山と異なり、平泉拡張域は認められず、翌平成（2007）年の一関市本寺地区景観村づくり条例もアドバイザーの伝統的建物等修理、修景補助金、支援制度発足、イグネに囲まれた中世農村家屋の文化財保護法での重要建物転換、一関骨寺農村景観形成重要建物修理事業受益者分担金に関する条例と文化庁官報告示で有意な地域を革新している。

この自律的地域形成主体が、平成18（2006）年の108世帯、344人の田園での中尊寺札揭示、農業以外の土地形質変更、大規模灌漑、圃場整備変更禁止の農山漁村地域力発掘支援モデル事業を担った骨寺村21世紀フォーラムである。

これを補完したのが、GSTC創設の平成20（2008）年の岩手宮城内陸地震、平泉文化遺産登録延期、莊園オーナーの会保全事業による全国初の景観保全農地整備事業と言える。翌年の夕日を見る会も中世農村景観培養、浄土思想涵養で、理論的综合科学指標の有意性と実効的实践科学での国際認証の有効性を増した。

平成23（2011）年3月11日の東北地方太平洋岸沖大地震は、東京電力福島第一原子力発電所事故を惹起し、自然災害と人為災害を増幅した。東日本大震災の根源からの復興は、平成23（2011）年6月29日の世界遺産一覧表記載と平成26（2014）年の6月29日付けの東北復興平泉宣言条例を一つの機に、平成の泉

を涵養し、地球環境保全、人類厚生向上、現代文明開化を促し、前世、現世、来世を繋ぐ平成の浄土を拓き、復興構造を革新機構に転換した。

2) 現代の越境観光地と国際認証の有効性

越境の革新加速の紐帯は、2000年指定の特別史跡、三内丸山で、津軽海峡を跨ぎ、東北北部、北海道を覆う縄文世界文化遺産申請で自然の叡智と摂理活用、次元転換、場所変換を促した。これが、世界遺産平泉と明治維新の近代産業遺跡橋野を絆に平成25（2013）年に編入した青森種差海岸を含む北の陸中三陸国立公園と南の黄金海岸を要に南三陸・金華山国定公園を合せた連繋重層の三陸復興国立公園設定と言える。生態管理の三陸ジオパーク、義経北紀行の相生文化圏は、種差・相馬間の900kmのみちのく潮風トレッキングロードを環太平洋地球文明相生の時空に転じた。

1982年の国定公園指定は、温泉、遠野昔話、空港、高速道路を軸に百名山の早池峰神社、山岳信仰風土を更新した。日本海ナホトカ号油汚染の1997年開設の東北横断自動車道（秋田、北上、猿ヶ石川の田瀬ダム、釜石）と2019年開通復興支援道路（遠野、住田間）、ジオ、エコパーク設定は、沿道の風格を高め、自然の叡智、摂理を総合科学理論的象徴の連鎖、実効的実践科学の心・物証で総合指標としての有意性を高めた。

早池峰神社は、白龍社を備え、神仏分離、山頂の霊池に因み、妙泉寺と国指定重要無形民俗文化財の早池峰岳神楽、40体の山伏法螺貝、2003年の無形文化遺産条約で有意な相生文化と有効な文明を相生し、ここに新たな持続観光の場所を産んだ。

世界遺産平泉と三陸復興国立公園の持続観光構造地域化の水土・生態の総合指標も白山、叡山の山岳信仰を地域化したと言えよう。

白山信仰の中心は、福井県勝山市の48社、36堂、6000坊の白山平泉寺で、天正2（1574）年に焼き払い、一向一揆を柴田勝家が滅ぼし、越前8郡を治めた。1990、93年の段階審査で世界遺産認定のニュージーランドのマオリ族の聖地トンガリロ国立公園に習い2001年に世界文化遺産認定の富士山の信仰と芸術で、立山と並ぶ日本三名山を白山比羊神社、白山7社信仰の中心とした白山講で、比

叡山延暦寺を媒体に大和の山岳宗教を培った。

フロンティアの平泉でも、コアの大和の熊野神社と共に白山神社を生み、薪能をアイコンに、相生の文化の深化、文明の相生の風情を培い、内外の遺産連繫で、総合指標の有意性を高め、イコモスの専門家審議を克服し、国際認証の有効性も高め、平成13年、2001年世界遺産認定を得、持続観光構造の地域化、観光持続機構の地球化を促し、持続観光圏の富士箱根伊豆国立公園の風格を一段と高めている。この両輪作動による総合指標の有意性、国際認証有効性の向上は、岩手内陸地震、平泉世界文化遺産の登録延期同期化、平成20（2008）年の荘園オーナー制と全国初の景観保全農地整備事業の同期・総合を源とした。この浄土思想を涵養し、外部参画励起媒体の平成21年の夕日を見る会の活動は、前論（2016年）で述べた如く、2009年の推薦書作成委員会、骨寺村荘園遺跡指導委員会も、景観法第16条での勧告、第17条の命令で、イグネ伐採、農地形質変更、水路河川改修抑制で、水土論、流域定住論を深め、平泉世界遺産拡張登録遺産変更を試みさせた。

東日本大震災と同期化した平成23（2011）年のガイダンス協議会設立は、翌年の符合評価基準を供えた暫定リスト記載、日本人支援学生に韓国学生民泊開始を踏まえた交流館、平成24（2012）年の若神子亭開設を機に、権力の都の平泉に対する権威の鄙の骨寺の浄土を持続観光構造地域化と観光持続機構地球化の饋還増幅で、浄土景観の有意性を適正化し、有効性を高めた。

両者の関連は、ユネスコと国際条約を媒体に文明の相生を励起した。これを増幅したのが、平成28（2016）年の中尊寺、平和祈願法要、シンポジウム「平泉世界文化遺産登録祈念行事」である。800年振りの厳修如意輪観音講式法要も、縁辺奥羽の浄土の都、平泉の自主的文化創造、地球の平穏な文明開化・相生を強めた。

平泉は、平安、平穩、平和、平成の相生の文化、内外の指標を総合し、総合指標の有意性を深め、縁辺、海陸の都鄙の国際認証の有効性に活かした。これは、戦時、有事を超えた文明の相生を促す世界遺産の関連性、双方向性を厳格適用し、建築・庭園を要諦に、大化から平成に至る前世、現世、来世の浄土を繋ぐ、縁辺陸奥の律令以来の北東の前線の持続観光構造・観光持続機構の核

心と縁辺、革新と基盤の総合指標の有意性を明晰にする内外の名勝、史跡を結び世界遺産の風格を高めた。源義経の北紀行伝説等も、時空を高め、平泉の国際認証の有効性を強め、浄土地域の相生の文化を深めた。

東日本大震災を機に、ゴンドナワ大陸起源の南部と日本海溝堆積物由来の北部が世界的ジオパークの源泉をなし、地震・津波と津波増幅の河川、海岸氾濫で脆弱化した共同体も、崩壊から復興を超えて蘇り、地域の相生の文化を深め、日本の海廊、アジア・太平洋の海環、地球の平和の環帯を培い開化する地球文明を相生した。

観光持続機構地球化は、持続観光構造地域化で交歓を饋還増幅し、内外、都鄙の平成の浄土、平泉の世界遺産の風致、地球を覆う浄土の創値源泉を培った。

持続観光構造の地域化は、観光持続機構地球化と連動、連携し、劣化・崩壊の危機回避の構造的緩衝余地と可逆的革新機構の余裕を備えた時流、時空、次元、場所に適合した価値創成に応じた。

これが、観光業、観光源、観光者、観光地の持続発展構造地域化、発展持続機構地球化適正循環で、有事、戦時を超え、平時、平穏な浄土を前世、現世、来世を通じて開き、末法の世に灯明を灯した。

平成27(2015)年には、復興段階に移行した三陸鉄道を鼓舞し、平成25(2013)年認定の日本ジオパークを踏まえ、250kmの八戸近郊の種差海岸から鯨漁の鮎川港を擁した牡鹿半島までのリアス式海岸の陸中国立、南三陸金華山国定公園を合せ、海の太平洋プレートと陸のユーラシアプレート間の大陸、大洋を体感する宮古近郊の浄土が浜を擁した陸中海岸を三陸復興国立公園に含め、三陸ジオパーク母体の接遇環境、潮風トレイルを活かし、日本ジオパークネットワークの北縁の白滝、南縁の霧島、その間の西縁の白山手取り川を想起させ、持続観光構造地域化の総合指標有意性を徴し、国際認証に誘った。

日本自然保護協会は、持続可能な生物文化多様性保全、志津川の気仙沼線のラッピングで志津川ジオ・エコパーク指定、早池峰ユネスコエコパークや三陸海岸自然歩道を活かした国際認証の有効性を高める社会基盤、場所を培った。この時流は、グリーンツーリズム支援の26市町村、歴史文化と自然体験の学習観光支援の25市町村が自主的に涵養する共同体（コミュニティー）の時空を励起

し、2015年の震災前後の観光客数県別回復率で、広域中心都市圏（宮城43.8%）に比べ、原子力発電所事故に見舞われた福島（64.3%）や三陸復興国立公園の中核をなす岩手（81.8%）を緩衝構造と可逆機構で、政治文化的復興を超えた社会経済を革新させ、現代観光の接遇環境を励起し、地域的総合指標の有意性と地球的国際認証の有効性を活かした革新的文明開化の萌芽を育んだ。

Ⅲ 流域定住圏の水土と自由自律圏の風水

1) 自由自律圏の風水と定住自立圏の水土

海陸、潮風、波吹、水運は、持続発展構造、発展持続機構の風水と水土の管理、時流と時空の次元、場所を左右し、その動態を変換した。時代風潮は、文化の風情を醸し、自然に風致を刻み、摂理、叡智を体感、体験、体得、体現させ、流域定住圏の水土と地球化機構の風水を強め、自律、自立の地球・地域の連携、突発的変革の緩衝、瞬間的崩壊の可逆は、低水管理、派川分水、運河連結、河口港、掘り込み港湾拠点都市を流域に齎した。

国家管理1級河川の北の北上川と南の阿武隈川は、日本三景松島を要に石巻と荒浜、明治維新の近代港湾野蒜と広域中心都市仙台近郊の国際空港、特定重要港湾仙台を貞山運河で結び、3県都を流れ、東海道グローバルメガロポリスの外郭広域都市を築いた。地震津波の自然災害克服の三陸復興国立公園と人災の蔭も濃い原子力発電所崩壊の浜通りの勿来、白河、念珠の関を越えた陸奥の鄙都平泉の浄土は、欧州国際メガロポリス、米国東岸世界メガロポリス、西岸の地震・気候変動の地球メガロポリスの国際認証の有効性を強めた。

仙台湾と太平洋に注ぐ新田北上川分流、改修は、伊達政宗が拓いた北上川下流、登米藩主伊達相模宗直の朱印船貿易開始翌年、慶長15（1605）年の低湿地川道固定と相模提建設、中田町浅水締切、東和町米谷湾曲減速治水での新田開発を促した。流量調整、流路変更、安定は、北上川下流柳津から神取山上流の追川合流、和瀨山間での江合川合流、鹿又、石巻流路開削と日本各地の大洪水、大地震を乗越え、1639年の鎖国下で、57年の江戸明暦大火、69年の西日本、70年の東海道、関東洪水を乗越え、伊達騒動、英国・西班牙植民地境界決定協定の翌寛文11（1671）年の東廻、西回り廻船、江戸・大阪間の菱垣樽廻船結合の

全国物流点確立で、日本人町、長崎を介した世界貿易の有意な窓を開いた。

長崎会所開設前年、伊達政宗の命で、ヴァティカンに赴いた支倉（1571～1622）は出奔の月の浦で、サンファンバティスタ号を西班牙船長ビスカイナ指揮下、気仙、岩井、江刺、本吉の木材で、幕府の船奉行向井と伊達藩の船奉行秋保頼重指揮下で造船し、ルイスソテロの太平洋横断に用いた。この賢明、強靱な河口海港開発は、総合指標の有意性、国際認証の有効性を示した。5年後に蓮如が石山本願寺を建立した1492年のトルデジュリアス条約と松平清康三河制圧の1529年のサラゴサ条約での世界分界は、日本地球化の源泉を培った。この時代に輝宗（1544～1585）の次男、第17代政宗は伊達から米沢に移り、元服し、最上の久保姫と会い、一向一揆隆盛の大和、アジアの日本人町、鎖国文化を育み、1601年に仙台青葉城を開き、地球の新旧、内外の地域を結び、陸奥の有意、有効な重層文化文明を千代（仙台）に開く相生の文化を深め、文明の相生を培った。

支倉常長と同じ、政宗の長州萩出身、毛利の家臣、川村孫兵衛（1575～1648）は、中田町浅水の相模堤建設、河道固定、水田開発に加え、東和町米谷の湾曲での減速治水、北上川下流柳津から神取山上流での迫川、和淵山間での江合川合流での流量安定と鹿又・石巻間流路開削、旧石巻河口海港開港で、東西廻船を結んだ。石巻から南部城下盛岡への北上川を遡る低水路工事（1880～1902）は、東京大風、大阪大火、米国横断鉄道開設の1880年、81年の露清間のイリ条約、ハワイ国王訪日前に着手され、日露戦争直前の日英同盟締結、台湾島民日本国籍編入の1902年に、近代日本文明開化、浄土開闢の総合流域を開発した。

これに続く仙台藩の大規模土木事業は、元禄元（1688）年の鳴瀬川改修事業、洪水排水の元禄穴川に始まる元禄6（1693）年吉田川改修と品井沼の鎌田三之助の干拓事業である。令和元（2019）年の台風19号の品井沼、大郷、吉田川上流の洪水は、この生涯を懸けた品井沼干拓、持続観光の象徴、松島湾への排水路、鹿島台開発を実践した鎌田三之助（1863～1950）に至る維新、開化、戦時を経、1971年にイランのラムサール条約加入で野鳥保護の浄土を拓かせ、伊豆沼等の日本三景松島の光背を為す生態、風水土を培った。同期、相乗の時機、転機は、持続緩衝構造地域化の余地、可逆持続機構地球化の余裕を活かし、総合指標の有意性、国際認証の有効性を高めた。地球、地域、自然、人類の視座

で捉えた米国西岸地球メガロポリスに対峙した中央日本地球メガロポリス背後の縁辺、辺境間の中間地の仙台広域中心都市圏は、持続観光構造、観光持続機構の特性を育み、自由自律の風水と定住自立の水土を流域に培い、徴してきた。

2) 変革順応の時空と持続継承の国立公園

太平洋に面した西岸地球メガロポリスは、ローッキー山脈越えの環太平洋造山帯西岸隆起山地とジェット気流、海流の織成す地中海性気候と生態が顕した美観を生んだ。地球の自然が産む叡智、摂理を体験、体感、体得、体現する先住民が棲み、山火事等の風土文化が、モンタナ、ワイオミング、アイダホ州にまたがる世界初の国立公園を1872年にユリシス・グラント大統領のイエローストン国立公園法署名で生み、世界自然遺産（1978年登録基準78.9.10）、国家指定管理自然公園の実効的实践総合指標の重合で、1987にチャコ文化国立歴史公園として自然遺産を保護し、先住民プエブロ・インディアンとの相生の文化に触発され有意性を高め、連邦、同盟の国際認証の有効性を強めた。

国立公園の史跡名勝に加え、理論的総合科学の有意指標と実効的实践科学の有効法令の重合は、多民族米国民開化と先住民自然文化の摂理、叡智の風致確立で、文明開化に果たす国立公園の意義を顕現させた。海外のサモア国立公園確立を含む米国内務省国立公園局管理の59の国立公園は、セオダールズバルトの有意な西部国立公園歴訪、イエローストン、ヨセミテ、レッドウッド国立公園の世界遺産指定に加え、1932年指定以来国際自然保護聯合管轄のウォータートン・グレーシャー国際平和自然公園（登録基準7.9）が、米加の国際認証の有意性と北米文明の有効性を高めた。

1983年にパナマとコスタリカの国境沿いに設定され1988年に両国共管となったラ・アミスター国際平和公園も、世界自然遺産指定で、タラマンカ山脈の緩衝保護区をなした。この地峡のパナマ熱帯雨林に覆われたダリエン国立公園（登録基準9.10）は、パナマ、コロンビア国境チョコ平原のアトラト川流域の熱帯雨林のロスカティオス県で、1974年に国立公園に指定され、1981年に自然遺産に、1982年に生物圏保護区に指定され、1994年に危機世界遺産指定を受け、国際条約の有効性と国内法の有意性の相克の国際法的課題解明と国内問題解決

に十分な広さを活かし、変革する時空に順応し、その設定意義と意味を登録基準議論の余地に残しえた。

中南米では、西のアンデス山脈が基軸で、東のラプラタ川が対をなし、アルゼンチン、ブラジルの国境のイグアスの滝が1934年設定の国立公園の風致（自然遺産、基準(7)(10) 1986年）を培った。

中南米両国の宗主国、西班牙国境よりのトレイルコースが1997、98年圏谷・村がガブアルニー巡礼複合世界遺産となった1967年制定のピレネー国立公園も可逆機構の余裕を培った。

クロアチアの首都ザグレブとボスニアのUNESCOタトリのMAB計画は1971年生物保護計画実践の国境国立公園で共棲緩衝を促し、戦時平時有事の時空の変動の次元・場所に応じて安全、安定、安心を涵養した。

日露千島国境では、世界遺産知床拡張がNPOの日露平和公園で試みられたが国際管理は無く、環境省認定NPO法人は、2008年の浅間山麓国際自然学校に留まった。1943年の中央計画素案の景観厚生地区でも、樺太、北海道、千島間は、1931年国立公園法制定、1934年の雲仙、霧島、瀬戸内海指定、60%国有地の国立、国定公園、都道府県立自然公園での自然環境保護行政地域化は弱く、これを逆用した日露国境を跨ぐ国際平和自然公園は、昭和18年、1943年の中央計画素案国立公園指定調査による34の国立、56の国定、311の自然公園でも設定されなかった。韓国も、2015年に世界自然保護基金にDMZ生態平和公園構想を示したに留まった。

管理権は、自然の美観、名勝の視座で1972年の自然環境保全法を活し、人口減のアイヌの自然文化、叡智、摂理を踏まえた北海道文明開化の総合科学的理論に加え、実効的実践科学、2007年の宣言で先住民アイヌの共棲の実効を縄文、擦文、蝦夷、和人文化に深めた。第一部、基本方針、第二項地方区域2を統一あらしめた風土は、伝統、習慣、感情、律令の城柵、源頼朝の奥州征伐の史実、源義経の北紀行伝承、平泉の浄土を包含した。この時流、時空は、松浦武四郎の思想に覆われ、露西亜革命を機にオホーツク海文明を包摂し、地名や河川にアイヌ語を刻み、カムイユーカーラ、神謡に覆われたウタリ（朋友）風土で、叡智・摂理を体感、体現させた。このアイヌ相生文化のアイコン、二風谷民族博物

館は、2018年に閉鎖され、19年のアイヌ文化推進法、20年に国立アイヌ民族博物館包摂の白老町ウポポイ、ポロト湖畔民族共生象徴公園に蝦夷地を超えた地球の北海道に民間ロケット打上等宇宙海洋産業で、現代相生文明を揺籃した。

この現代相生文明は、蝦夷地、樺太、千島の北方領土国境や石巻市網地島のベーリング像が表徴した北極圏での交流と交歓が励起した自然の叡智、摂理の涵養で、終戦での千島樺太帰属課題解明、問題解決に有意な法令的総合指標、風土文化刷新で国際認証の有効性を高めた。

日本でも、内閣府は、総合海洋政策推進事務局の有人国境離島政策推進室が『日本の国境に行こうプロジェクト』を推進した。なかでも、対馬海峡の対馬を挟む西水道（朝鮮海峡）と東水道を越え、壱岐対馬国定公園が覆う対馬海峡の先に位置した1955年指定の外洋性多島海のリアス式海岸の西海国立公園の西海市崎戸町平戸島と五島列島間の奇岩断崖海岸の離島水産振興の平島は、その象徴をなした。

特定有人国境離島地域は、露西亜の樺太と日本の北海道の間の武蔵堆と宗谷間の利尻、礼文の2島を北端とし、前論（2017年）で論究した1951年のサンフランシスコ条約にソ連は調印せず、北緯50度以南の南樺太、択捉島以南の千島4島は、日本に帰属し、日露間でも、国際法上は帰属未定で、国際公園の緩衝構造は残った。

樺太の帰属は、参勤交代制確立、日本船寄港、唐船の長崎寄港限定の1635（寛永12）年の松前藩探検を機に、金の礎を固め、国号を清とした年（1636）に決した。後金の母体、女真の開祖、ヌルハチは、徳川家康が死亡した1616年に機を一にし、清が明の皇都北京を襲った1628年にシベリア、ツングースクを遠征したが、黒竜江には達せず、樺太、千島は、探検の域に留まった。

蝦夷、千島、樺太を探検し、物資交換と文化交歓を促したのは、奥羽山脈を越えて対峙した出羽の最上徳内（1754～1836）で、越後の経世家で、江戸の本田敏明（1744～1821）に天文学、測量学、蝦夷地への航海術を学び、1786（天明6）年に幕命で、蝦夷松前から厚岸、千島の国後のマリ、択捉の内保、沙那、得撫の床丹を探検し、蝦夷草子、渡島筆記を著した。1779年初版日本輿地路程全図や最上徳内が近藤重蔵と共に、1798、99年に択捉内保より国後泊を経て、

蝦夷地に戻った時に経由した択捉、国後、色丹、歯舞4島は、1875年の千島樺太交換条約には銘記されず、戦前、戦後を通し、北方4島を所管する根室支庁に属した。

常陸の伊能忠敬に測量を学んだ間宮林蔵（1780～1844）は、1800（寛政12）年に蝦夷地御用掛になり、1808（文化5）年に幕命で蝦夷地経営に参画した幕臣松田伝十郎と樺太を探検し、間宮海峡を発見し、島嶼であると認定し、単身、黒竜江を遡り、山旦、沿海州を探検した。この時期は、1780年のモスクワ大劇場建立で、西のパリに対した東の文芸の都の風致を刻んだ。

ロシア帝国は、1841年の仏蘭西を加えた5国間国際間協定で、ギリシャ聖教の流れを受けたロシア正教を軸に、ウラル山脈を越えたシベリア展開の兆しをみせ、1847年に、ムラヴィヨフを東シベリア総督に、51年にはモスクワ・サンクトペテルスブルグ間鉄道を開設した。シベリアでは、アムール川とハバロスクで合流し、ウラジョストックに向うティムール川、ウスリー江東を清露共管地としたアイゲン条約を58年に結び、北米アラスカを侵し、大西洋横断海底電線敷設の67年の自治貿易、カナダ自治領成立を享け、アラスカを米国に売却し、76年にバルト海沿岸を領有し、91年社会立法等黄金時代の源、北海・北極の要デンマークに対した。

中立国スウェーデン、アイスランドと連合国の米加間の中立国デンマークのグリーンランドは、西半球防衛線と欧亜大陸、南北米大陸中間の大西洋上、米大陸防衛線間に、1938年のデンマーク中央アジア探検隊派遣の翌年に独逸と不可侵条約を結び、40年の独逸軍デンマーク侵攻に対し、翌41年に米国軍の占領下に置かれ、国境離島防衛の典型的時空を顕現し、持続観光でも緩衝構造を養った。

デンマークから1903年に自治権を付与されたアイスランドと日露戦争の1905年にノルウェーを分離したスウェーデンは、終戦と共に国連に加盟し、翌年に、本土ユーラン半島とアイスランドの間のフェロー諸島に自治権を与え、国境地帯の特定有人国境離島地域の防衛、防疫、防災の緩衝構造、交歓、交流、交易の可逆革新機構を顕した。47年にデンマークは首都コペンハーゲンで北欧外相会議を催し、ソ連と友効条約を結んだアイスランド、中立条約のスウェーデン、

フィンランドに対し、48年のソ連ベルリン封鎖をうけ、49年にノルウェーと共に NATO に加盟し、前論（2017）で詳述したサンフランシスコ対日講話条約締結下の51年に世界平和評議会事務局、グリーンランドを海外部に移管し、53年に世界婦人会議を置いた。59年に連邦州に組み入れ、75年のアイスランド200海里漁業専管水域設定や77年のノルウェー沖原油流出事故等に対し、自治領とし、72年制定の世界遺産条約批准、78年の世界初の犬橋北極点単独到達で、翌79年にグリーンランドは最古24万年の氷床217km²を活かし、理論的総合科学と実効的実践科学を統合し、84年にマキンレイ単独登頂を遂げ、国民栄誉賞を受け、南端の植村峰名銘で観光風致を刻んだ。EU 離脱後の85年以降は海洋資源問題調停、総合安全保障機能を具備し、マストリヒト条約締結の1992年に国民投票で欧州連合条約締結を一端否決し、93年に批准し、96年の国連緊急即応待機旅団創設協定で、1974年に設立され、1988年に公園面積が972,000km²に拡大された北東グリーンランド国立公園、2004年の西部のイルリサート氷河の世界遺産登録に加え、2017年に南部のクヤータ・グリーンランド氷帽末端におけるノース人とイヌイットの農業景観が、自然の叡智、摂理の風致を刻み、デンマーク主導の地球の政治社会、環境厚生連鎖の要をなした。

IV 民族共生象徴公園と特定有人国境離島

1) 有意な巨大極地観測基地と相生の風土醸成

デンマーク自治領・グリーンランドは、北方イヌイット文化を基に、南部の牧羊イヌイット文化とベーリング海峡を越え、シベリアのチュコト半島に至るイヌイットを加え、エスキモーとして定住、移動するユピックを合せ、セルメルヌーク市のヌークグリーンランド国立博物館・公文書館を極地にあって民族共生、相生文化、文明相生の象徴とした。

981年アイスランドのノール人ヴァイキング、エイリックが追放中グリーンランドに至り、翌年に南西岸に植民し、東西に分化、定着し、1016年のデンマーク王カヌート [1014~1035] が英国支配で勢力を強め、海産物の輸出、ノルウェー、アイスランドから木材、鉄器輸入で社会経済力を強め、1261年からのノルウェー王国を経て1380年からはデンマーク王国に属し、自治を保ち、カナ

ダ北西部のドーセット文化を地域化し、西方の宇宙軍基地チューレ文化の地球化で、ヴァイキングとイヌイット文化の共棲を促し、相生の政治文化を社会経済相生で培い、現代の持続観光風土を励起した。

1397年のカルマルの北欧3国統一、1443年のコペンハーゲンへの奠都、1523年のスウェーデン独立、気候変化、1536年のノルウェー属領化で、限界集落は16世紀に消滅した。ルター派の宣教師ハンス・エゲデが、1728年南西岸ゴットホープ（希望）を拠点に、1733年の天然痘でのイヌイット人口激減、1774年の王立貿易会社設立を経、新たな民族共棲の自然叡智、摂理を活かした北極の相生の文化を地域化し、自律自立の極地文明を北極の近代都市文明で地球化し、現代文明開化の相生を持続観光構造の地域化と観光持続機構の地球化で齎した。1979年にヌーク（半島）に改称し、82年に創立したグリーンランド最大の都市、グリーンランド大学開学、クルーザー観光の地球化でその中心地を確立した。

この源は、1601年の天才天文学者ティコブラーエ [1546～1601] の死、17世紀のルネッサンス運動、1642～45年の対スウェーデン戦争、1723年のベーリング海峡発見、キリスト教布教、欧州人移住、日清戦争の1895年の北緯86度へのナンセン（1861-1930）探検励起の地政学、鉱産物開発にある。

グリーンランド自治権は、1903年のデンマークのアイスランド自治権付与、日露戦争での露西亜敗戦、革命、第一次世界大戦、露西亜からのフィンランド、スウェーデンからのノルウェー分離独立、1930年の北欧3ヶ国、ベネルクス3国にフィンランドを加えたオスロ同盟形成で生み出されている。

中国革命下の1932年の満州国建国、33年の常設国際裁判所裁定でグリーンランドのデンマーク主権は認定され、36年の北欧3ヶ国中立宣言、40年の独逸軍侵攻、41年の米軍のグリーンランド軍事占領、44年のアイスランド独立で、グリーンランドの民族共棲自律定住圏の萌芽が芽生え、北極圏政治経済、文化社会構造変革で51年の北欧会議に至る自律時流を強めた。

1953年にグリーンランドは、植民地を海外部に昇格し、1979年以降自治領となり、1985年にはデンマーク領のまま EU から離脱し、自治領の自治体国際化拠点をロンドンに、北緯82度のデンマーク軍ノード基地に気候変動、調査研究基地を置き、民族共生機構で、米軍基地と棲み分け、特定有人国境離島地域の持

統観光構造地域化で自然の叡智、摂理を涵養し、相生の文化を深め、質的に巨大な極地観測基地を育み、相剋する巨大現代文明を相生した。

ここは、1952年に源泉を持つ、小村であったが、北緯82度で、十分な滑走路を有し、研究、集会、厨房、宿泊、支援等春から秋の研究深化施設が、接遇環境を醸す世界最大(97.2万km²)の北東グリーンランド国立公園に1994年に産れた。

この持続観光構造は、各国の調査、研究地域が探検の時機、経緯の培う時空で棲み分けた南極に比べ、管轄権が確立し、総合科学的理論実証と実践科学的実効を培い、大洋、大気、大陸の急速な温暖化構造、機構を探查し、体験、体得、体现する気候生態変化観測の最適地をなした。この国立公園の時空、場所、次元は、円滑を促す有意な総合指標と国際認証の有効性を強め、観光持続機構地球化を同期化し、構造急変、軋轢、壊滅を回避した。

グリーンランドは日中平和条約締結の1978年に自治権を獲得し、米中国交正常化の1979年の自治政府設立、80年の公選世界初の女性大統領選出、82年の地名のイヌイット語化、中央政府の警察、司法、沿岸警備権限の自治政府移譲、本国との地下資源二分論で、7500万デンマーククローネを自治政府と2009年から残余折半とし、自然の叡智と摂理を涵養し、自立の地域化構造と自律の地球化機構を強めた。この持続観光構造・自律機構の風土醸成は、中露朝の北極地下資源開発動向、83年 EC 漁業政策反対、93年欧州共同体条約批准、96年の国連緊急即応旅団創設協定調停、2000年ユーロ導入否決、2002年移民規制強化、2008年に自治権拡大の住民投票（投票率71.9%；75.54%賛成）でなされた。

2009年に3郡の自治領は、4地域に、2018年に5地域へ、公用語をグリーンランド語に、地名をイヌイット語とした。85年に EC から脱退し、選挙区外となり、EU 市民権、国籍保有の重層的構造、機構で自律連繋圏を培い、北西部居住圏、北東部世界最大国立公園、2004年に登録基準7.8で世界遺産イルリサートフィヨルド（39.9万 ha、内32万 ha 氷河）を、交歓軸観光の要とした。

北欧5カ国の中で、アイルランド、デンマーク、英国の拡大 EC 加盟の1973年のグリーンランドを要に北端のネアーズ海峡のハンス島を巡りカナダのエルズミア島1・3 km間国境紛争調停がなされ、半年毎の駐留軍交代を相生の象徴とした。

スカンディナヴィア半島の背骨をなすスウェーデンの重層的分化・共棲自律構造は、ヴァイキングの故郷ロスキレ、アンデルセンの故郷オーゼンセ、ユトランドの古都オーフス、500余の特定有人国境離島は、北極圏資源開発、環境・社会産業革命、研究観測、持続観光機構を培い現代文明の相生を促した。

約4.3万km²、人口550万人のデンマークは、厚生・環境、文化・教育の5次産業地域革新機構、構造を培う風格で、有意な総合指標を活かした持続観光構造を地域化し、有効な国際認証風土の学都を醸した。

平和の海環、北極海と南極海の棲分けは、世界最大の北東グリーンランド国立公園と南西世界自然遺産のイルリサートアイスフィヨルドの自然の摂理、叡智涵養の実効的民族共棲風土文化で培われた。南東の植村山命名は有意な日本型総合指標の叡智・摂理風土を養い、有効な国際認証で、現代文明相生の徴を記した。

この両極地に対する人類の英知、倫理が培った文明開化の源泉は、大河川流域の四大文明発祥地で、権力と権威の源が涵養され、次元転換、場所変換を通じ、余地と余裕のある平和の海廊、海環、環帯を培い、宗教権威、帝国権力の緩衝構造と可逆機構で文化を深化し、文明を開化し、持続観光構造の有意性、観光持続機構の有効性を高めた（宮川、1993、94、97、2011）。

持続観光構造地域化と観光持続機構地球化で涵養される平和共棲の風土は、海陸連繫主軸の大河、海港を産み、平和の海廊の主軸の4大文明を開化した。紀元前3000年のギリシャ、キトラダス、クレタ、ミノアのエーゲ海文明にトロヤを起源に、ヒッタイト、フリギア、リティア王国を緩衝構造に、イタリアのプロトエトルリア文化を享け、ドーリア人南下、イオニアの12ドデカポリス建設、紀元前1100年イベリア半島のフェニキア人植民と時を同じくし、地中海文明を紀元前900年のスパルタ市の誕生を機に確立し、北岸のギリシャ、ローマ、南岸のエジプト、フェニキア文化を棲分け、地中海文明を培った。

地中海文明は、アルプス、山脈に遮られ、最大氷河地域に覆われた北欧デンマークには、新石器文明が展開し、紀元前2000年には、カスピ海周辺からのアリア人民族移動の西縁で農業と単葬墳文化を芽生させた。東南のガンディス文明開化は、デカン高原を越えた南印へのドラヴィタ人移動を触発した。紀元前

1500年には独逸北欧のゲルマン人が棲み、地中海の南北、東西文化、文明圏の権力権威統合が、相生の重層的な地中海、欧州、欧米文明を開いた。

この伸展は、南印にアウグスティヌスの遣使（BC26～27）で、ローマ人居留地展開、陸海の交歓、交易、交流路を拓き、民族移動、宗教文化の伝播を前漢に拡げ、インダス河口のサガ王国、大月氏、大乘仏教、小乗仏教を拡充し、ユーラシア大陸の広がりをプトレマイオスの世界図に現し、文化文明の重層的な苗床、平和の海廊、海環、環帯を培った（宮川、1993、2013）。

この世界図で、デンマークは、ローマ帝国、アルプス山脈、1054年に東西教会に分離したキリスト布教地背後、ゲルマニアのユーラン半島北西、キンプリを印し、宗教権威と帝国権力の拮抗、メデナ拠点のチグリス、ユーフラテス川流域の「文明のゆりかご」・メソポタミア文明開化、縁辺の極地前線の持続意義を顕した。

ササン朝ペルシャ帝国を覆い、ガンジス川文明のマガタを発祥地にヒマラヤ、チベット、中央アジア、西域を超え、シナ、高句麗、日本飛鳥に布教された北伝大乘仏教と南印を経、セイロンを要にベンガル湾、印度洋を超え、南、東シナ海、日本海を経、日本に至る南伝小乗仏教宗教圏が、陸海の交易、交通、交情、交流路で、自然、人類の平和の環帯の萌芽、交歓、観光を育み、布教の時流を培い時空を変えてきた。

この平安、平成、平和の平時、戦時、有事を超えた交通・通信の確保、踏襲、開発が、陸海のマルコポーロの行路（1271～95）、明の永楽帝の北征陸路（1402～24）、欧州黒死病（1347～51）後の鄭和の南西海路（1405～32）で、一带一路の原型を顕現させ、ルネッサンス文化深化、1443年のコペンハーゲン奠都、1475年のコペンハーゲン大学開校の文明開化による西欧先進国の東西植民地展開の地域化構造、地球化機構で1494年の西班牙と葡萄牙のトルデジリアス条約と1529年のサラゴサ協定で世界分界を確立させた。この3年後の1497年には、北欧王国同盟が結成され、ジェノア人ジョンガボットが北米を発見し、98年には葡萄牙人がマガリカットに到着し、貿易と征服、布教と居住で文明の相生を培った。

1537年にはデンマークがルッター派を国教とした。1556年に神聖ローマ帝国

のネーデルランドが1581年に和蘭として独立し、1616年のコペンハーゲン東印度会社設立で、広域的ルネッサンス文明を開化し、1638年にシベリア遠征軍が太平洋岸に達し、清がロシアと外蒙古国境キャプタを開市した1728年には、ベーリングが海峡を発見し、日本語学習所開設翌年の1706年に領有したカムチャッカ半島ペテロハバロスクに至った。1813年には国立銀行を設立し、15年には、ノルウェーを手放し、スウェーデン聯合王国を生み、日本は70年に開拓史を置き、蝦夷地を北海道とし、千島、樺太を明治維新、産業革命の苗床に整えた。

デンマーク文化のアイコン、アンデルセン（1805～75）の没年は、露西亜、樺太千島交換条約締結の年で、婦人参政権認可の1915年は、独逸に対する第一次世界大戦開戦で、独逸領南洋諸島を日本が占領し、防災、防疫、防衛の国境縁辺離島の自然、文化両面で海洋民族共棲、風土、水土考究の適地にした。

2) 特定有人離島と有効観光持続機構

国家の国体は、持続観光構造地域化と観光持続機構地球化で、地球、地域、自然、人類の国際認証の有効性を培い、総合指標の有意性を高めた。軋轢、崩壊の緩衝構造、持続可逆の革新機構は、国境の民族共生象徴公園、海洋の特定有人国境離島地域の国際海峡国立公園、世界遺産の有意性、国際認証有効性を左右し、自然の叡智と摂理を体験、体感、体得、体現する意義を明瞭にした。

この端緒は、2000年登録の海峡を超えた琉球の15のグスク、4つの関連文化遺産にある。2020年登録を目指した奄美大島、徳之島、沖縄県北部及び西表島の世界自然遺産申請は、有事の1国1件制約世論、国際自然保護連合の登録延期圧力下、総合指標有意性、真正性が厳格に審査され、自然環境、生態の特異な構造、有意な機構で国際認証の有効性を勝ち得なかった。

津軽海峡を跨ぐ、2021年の世界文化遺産登録は特別史跡、特定海域の北海道東部の縄文遺跡群登録申請を有意な総合指標と有効な国際評価で、自然の叡智と摂理の美観を体感し、持続観光構造地域化と観光持続機構地球化の気運を強めた。

この源泉は、明治維新、戦時の中央計画素案にあり、海峡を超え、国境を跨ぐ、北縁の樺太、千島、北海道（蝦夷）3地区と津軽海峡を越えた北縁陸奥湾

の浅虫、夏泊崎の自然景観地区を産み、有意な持続観光構造を強め、相生の文化を深め産業革新、生活刷新で国際認証有効性を高め、観光持続機構地球化の相生の新たな文明を開化し、特定有人国境離島の意義、民族共生象徴公園の存立意味を顕現した。

これと同時に持続観光構造地域化の総合指標の相生の文化は、地球、地域、自然、人類の持続崩壊、壊滅防止の緩衝構造を浮彫にした。地殻変動、気候変化の可逆革新機構地球化は、中央計画素案の別表文第二の景観厚生地区、文化景観、自然景観、厚生保養地区指定で、総合指標を活かし、持続観光構造地域化の緩衝構造、可逆機構を作動させ、国際認証の有効性、地球化を高めた。樺太では、敷香山、白雲峡、多欄内山地区に加え、名好山地区は、名好温泉地区指定と合わせ、自然景観と厚生保養の内地並み指定地区を活かし、雑居容認の樺太と日本専管の千島の差異を超えた現代の相生の文化を共に創り、現代文明相生の象徴、白老のウポポイを育み、日露の民族共生象徴公園の布石となりうる潜在力を備えた。

樺太では、学校建設地区も南部に限られ、維新後の日本との交流、交歓に着目し、南部でも中央の空港に近い豊原と港湾に近く、新設空港計画の敷香と港湾の真岡に近い2地区が指定され、有意、有効な持続観光を培う流域定住圏を水運の幌内川、工業電源開発の敷香、恵須取川、電源の留多加川、工業の鈴谷川沿いに加え、敷香（豊原）－大泊（白主）鉄道敷設計画と交歓交易交通活性化を図り、ベーリング、オホーツク、日本海と日本の排他的経済管区水域を活性化の要とした。

中央計画素案の景観厚生地区指定は、交流、交歓の源泉、要諦を捉え、国内外観光考察上肝要な、特定有人国境離島の地域化構造、地球化機構の視座を与えた。

本州北縁の東北と異なり、南縁九州は、周辺の離島群だけでなく、琉球王国の歴史、領域を享けた沖縄を包摂し、佐渡を包摂する北陸や伊豆7島に続き、珊瑚礁の南端孤立の東京都小笠原村沖ノ鳥島、東端の南鳥島、西端の与那国島を含む小笠原群島にアジア、太平洋の要、地球、地域、自然、文化安定の実効的実践科学、相生の文化深化、文明の相生、風致の殿堂を持続観光構造の地域

化、観光持続機構の地球化の交歓、創智の学都連携での自然の叡智、摂理探究の実効的実践の神宿る島々の砦を築いてきた。

1945年の第二次世界大戦後の終戦の詔書発令、国交回復、領土返還、49年の漁区制限第一次緩和、50年のマグロ漁区拡張許可、51年の国連サンフランシスコ講和会議での平和条約調印で構造化され、持続機構が培われ、52年に日華平和条約調印、日印平和条約調印、日米行政協定調印での地球地域新秩序形成、皇太子外遊、52年世界遺産条約調印後の53年の琉球、九州間奄美諸島復帰で、観光圏を変えた。

これに同調し、日本のユネスコ世界遺産登録に当たっても、屋久杉をアイコンとした南端九州の屋久島と北縁の青森・秋田のブナの原生林の白神山地自然遺産が対峙した。

北東端の北海道知床の世界遺産登録は、下田地震、大津波の1854年の日米、日英、日露和親条約で、開国後の国際秩序が1885年の日露通好条約で開示され、樺太の日露雑居、ウルップ以北の千島列島明示で、沿海の千島4島は蝦夷と和人の交流島嶼となり、1875年の樺太千島交換条約での領域が明示され、日露戦争後のポーツマス条約では、南樺太が日本領とされ相生の文化を地域化した歴史を回顧させた。

1951年の第二次世界大戦後の国連主導のサンフランシスコ平和条約に、ソ連は調印せず、日本の放棄した南樺太、千島列島と北方4島の帰属は定めず、1980年のWHOの天然痘撲滅宣言、コペンハーゲンの国連世界婦人会議翌年の1981年に北方領土の日を定め、宇宙・地球の自然民族共棲、相生の現代文明開化の接遇環境を2005年の知床世界自然遺産登録で特定有人国境離島地域の一体性を築く相生の文化創成の余地と文明の相生を促す余裕を涵養した。

V 結び

国家の風格を顕現する風土は、風水、風情を漂わせ、地域化の構造、定住の水土を創成する。この地域化構造と地球化機構の交歓は、観光源の自然の美観、文化の風格を磨き、持続観光構造地域化、観光持続機構地球化を廻らせ、戦時の国水、国土、国風、国民の中央計画素案の景観厚生地区と学校建設地区指定

は持続観光構造の礎を培い、指標システムの有意性と国際認証の有効性を高めた。

北縁の樺太、千島、蝦夷と南縁の朝鮮、沖縄、台湾、東西の太平洋・日本海諸島の持続観光比較は、国際観測の連携の下、排他的経済管区水域を含む領域（領土、領海、領空）（大陸棚、宇宙、海底）での総合指標の有意性、国際認証の有効性、大気・大洋・大陸変動、生態、水土変化の国際観測、予防理論、実践実証共同科学拠点構築を促した。

樺太と北海道は学都、札幌地区を擁し、沖縄首里建設地区は、九州地方の学都鹿児島地区に属し、台湾は、既成学都の台北と台中地区を擁し、台南、高雄地区を建設地区とし、東、南支那海観光・交歓の有意性、有効性の要をなした。

沖縄は、オホーツク海の出口、間宮海峡と日本海の出口、対馬海峡に挟まれた日本海に続く東シナ海と太平洋を画し、その有意性と有効性を規制してきた。

東シナ海と南シナ海を画する台湾に向う王都首里は、足利幕府、薩摩藩の奉行所設置で文化景観地区指定の水土特性を顕し、地球化促進学都の要をなした。

沖縄は、中華人民共和国の国連加盟、中華民国の脱退、沖縄返還協定の1971年を機に、生物兵器禁止条約調印、ストックホルムの国連人間環境会議、海洋汚染防止条約調印、日中国交正常化の翌72年から四半世紀を経て、プーチン大統領当選、チェルノヴィリ原子力発電所事故閉鎖の2000年に琉球王国のグスク及び関連遺産群を踏まえた世界文化遺産登録で、龍樋と古酒、遥拝と防衛、防災と防疫の時空を活かし、持続観光構造地域化、観光持続機構地球化を、日本型総合指標の有意性と国際認証の有効性で高め、相生文化を深化し、現代文明を開化を相生し、平和の海廊、太平洋の海環、地球の環帯の要をなした。

この時空の源は、東シナ海と南シナ海を結ぶ台湾海峡を挟み対峙した支那大陸の隋が、推古天皇（593～628）の御世、憲法17ヶ条発布翌年、605年の東都洛陽建設、大運河開設にあった。日本が小野妹子を隋に遣使し、高句麗が百済を撃った607年に遅れ、610年に義浄等の仏教伝播や主要な交易路から離れた瑠球（台湾）を討ったが、戦時、有事とも協道に留まった。

平時でも、小琉球（沖縄）と大琉（台湾）は、東シナ海と南シナ海境界の要で、大陸では道教5山の本山、首都洛陽に至る山東省泰安県の泰山を望む地にあり、1987年に世界複合遺産、ジオパークとなり、持続観光の要をなしたが、

前論（2018, 20）述べた如く、この要の源泉は洛陽に戻る法顕（399～411）の仏教伝来、日支外交・公的貿易ではなく、南宋から明代の『私的貿易、日本人町、前後期の倭寇、世界分界協定に至るキリスト教布教』による。この時空変換の有意な地域化構造と有効な地球化機構の関連は、印度のブタガヤ、カルナスヴァルナ、タムラリプティ、印度洋の東北翼ベンガル湾のアンダマン海のニコバル、スマトラのマラヨを経て、唐の広州、杭州、揚子江河口港の蘇州を結び、洛陽、長安に至る義浄（671～695）の航路でも伺われる。日本海では、713年唐から渤海郡王が任ぜられ、渤海国開国、神亀4（727）年に東京龍原府を経、新羅を避けた日唐の陸海の外交路を生み、180年間、13回の遣使と毛皮、人参、蜂蜜、絹糸、織物、漆器貿易で日本海越え敦賀松原客院（804～919）、福浦能登客院（804～）を交易の要にした。これは、現代の持続観光構造地域化と観光持続機構地球化考察に有効な現代環日本海観光圏探究の針路を示した。

この三重の眼窩は、710年の奈良、平城京、794年の京都、平安京開府を経、927年に遼が減はずまで続き、内外航路、港湾の持続観光構造、観光持続機構が持つ国際認証の有効性を培い、有意な持続観光構造地域化の総合指標の意味を培い、地球の時流の転換と地域の時空の変化の重層的意義を示した。

これは、海路を使った南伝小乗仏教と異なり、陸路を活かした北伝大乘仏教も528年から高句麗、新羅に384年以來の海陸路を結ぶ百済を経て、博多、瀬戸内海、河川、運河を活かし、飛鳥に至る陸運やシュリーヴィシヤ（スマトラ）を回転軸にボルネオ、ルソンに至る水運の海路に瑠球を組込ま無かった。杭州から、坊津を経た遣隋、遣唐使の奄美、阿児奈波島を結ぶ海路も、東アジア文明圏では、2017年登録世界遺産、神宿る島沖ノ島と関連遺産群に象徴される近海の神社が守った。

渤海に契丹が、新羅に高麗が取って代り、日本の北では平将門、南では藤原純友の天慶の乱が陸海で起き、東アジア秩序を一変し、960年に君主独裁官僚制の宗を頂点に、政治経済機構に加え、社会文化構造を転換した。997年の高麗の九州侵攻、985年に往生要覧を著した最澄の天台宗比叡山延暦寺で、浄土宗開眼の源信が新仏教を開き、都鄙の持続構造地域化と可逆機構地球化を均衡させ、構造化の連鎖と機構化の主体、場所の変動と統禦の能力の意義を示した。

末法初年の1052年を経、金が遼を、次いで、北宗を滅ぼし、中尊寺が落慶法要をした1126年の翌年には、元の胤を撒き、セイロン仏教がビルマに伝わった1190年の翌年に、栄西が臨済宗を拓き、1192年に源頼朝が鎌倉幕府を開き、持続観光の構造、機構を変えた。

鎌倉幕府開闢は、陪都大宰府、博多港を擁した福岡の誓願寺を西国布教拠点にし、99（正治元）年に鎌倉に入り、幕府の帰依で、寿福寺を、1202（建仁2）年に京都に建任寺を建、奈良の東大寺大勧進で、復興に努め、仏教布教の地球化の機構、地域化の構造の象徴、鎌倉五山仏教の礎を培った。

比叡山、建任寺で栄西の下、道元（1200～53）は修行し、越前志比庄地頭波多野義重に招かれ、1241年の鎌倉大地震後に吉祥山、永平寺を43年に開き、45年の京都大地震を機に、地域化し、鄙都の風格を培った。

都鄙の仏都、布教の変動は、権力と権威の圏域の変質を東大寺の復興欲儘、1207年の朝廷の専修念仏禁止と法然の土佐、親鸞の越後配流で、鄙の仏都を育んだ。布教と巡礼、象徴と遥拝の有意性の意味と有効性の意義を深めた。

この時機は、1206年のジンギスカン（太祖）即位、1260年のフビライ（世祖）即位を経たユーラシア大陸への侵攻、欧州での十字軍伸展を超えた、英国の1215年の大憲章制定で、鄙の宗・政権力、権威の新秩序を産んだ。

この地域構造均衡とマルコポーロの東方旅行紀行文が、現代に至る欧亜共棲の有意な観光地帯構造変動機構と国際認証有効性を高めた。

この時空の縁辺、時流分化の先端の島国日本で、1271（文永8）年蒙古使国書を幕府から進上された天皇は、勅使を伊勢神宮に派遣し、異国降伏を祈った。1271年に伊豆、佐渡に流布された日蓮も伊勢の御幸通りに面した常明寺で日蓮宗改宗、異国降伏を祈り、神仏共棲を体現し、高麗軍を従えた元軍を弘安の役で破り、鎌倉大地震、元軍ジャワ遠征の1293年に鎮西探題を置き、95年に防衛・貿易で、マルコポーロの海路（1271～95）踏襲の安定海陸秩序を促し、有意、有効指標を刻んだ。

元に劣らず明の永楽帝の5回の陸路北征（1409、10；14；22；24）と鄭和の海路の前後7回の南征（1405～1432）は、交易、交歓、交通、交渉を活発にし、勘合貿易の経済秩序下、前後期の倭寇（1350～1420）の治安紊乱で、辺民の日

本人町、1429年の琉球王国統一の政治経済機構を築いた。

道教、仏教の発生伝播の文化社会風土構造地域化は、国際政経機構を産み、キリスト、イスラム等の布教、植民地、帝国領土拡大で、世界分界協定を深めた。

十字軍と欧州大陸、中東のイスラム教伸展、欧州とローマ聖教の東欧、西班牙と葡萄牙の1492年のグラナダ陥落でのイスパニア統一、コロンブスの米国発見が、日本では一向一揆のあった1488年のバルトロメディアスの喜望峰発見で、葡萄牙・西班牙の地理上の発見を一機に広げた。1494年の法王によるトルデジユリアス条約での世界分界協定は世界を2分し、大阪石山本願寺を蓮如が築いた1497年には、英国の後盾でジェノバのジョンガボットの北米、98年の葡萄牙人バスコダガマのカリカット到着が、地球文明を開いた。

この2分した地球・地域の持続構造、持続機構の交歓、重層は、1529年のサラゴッサ協定、34年の英国首長令、イエズス会創立や1541年の明の安南統使司、1543年の種子島発見で実証された。1580～1640年の西班牙・葡萄牙同君連合は、1581年の和蘭独立、88年の英国のイスパニア無敵艦隊打破で持続の地球地域秩序を変え、それを表徴する有意な構造的示標と有効な国際的認証を顕現してきた。

1583年の女真ヌルハチ拳兵、松花江下流の覇土化、日本戦国時代の織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の統一は、世界分界協定の東境の海陸で、倭寇の侵攻・貿易、日本人町の開設、1582～90年の九州3諸侯の少年使節派遣で、持続の地域化と地球化の政治経済・社会文化秩序を培い、相生の文化を深め、文明の相生を促した。

1619年にジャワ総督が、バタビアを開いた和蘭は、1622年にマカオを攻撃し、明から清に代わった大陸に対し、1624～62年に北の鶏籠、南の安平の港を軸に台湾を占領し、西班牙占領下のフィリピン、薩摩支配下の沖縄間の台湾を支配し、和蘭を紐帯に、島原の乱平定の翌年の1639年に長崎出島のみを41年に和蘭人に開き、鎖国した日本に対し、61年に鄭成功占領の台湾を83年清占領まで支配し、構造の地域化と機構の地球化における場所と主体の意味と意義を顕現した。

米国で、最初の恐慌、産業革命の起きた1837年に、モリソン号が漂民を伴い浦賀に入り、44年の和蘭国王の開国進言、46年のビドゥルの通商要求、47年の琉球国王の英仏開港、48年の米船蝦夷漂着、1853年にペリーがコロロンボ、マラッ

カ、シンガポール、香港、那覇を経て、浦賀に入港し、太平天国の乱で清の混迷下、54年に日米、日露、日英和親神奈川条約を締結した。56年の米国領事ハリス駐在、ムガル帝国滅亡の58年に日米修交通商条約を結び、太平洋を挟み、米国に対する日本を開国し、明治維新の文明開化で、米国西海岸メガロポリスに対する京都・東京間の東海道メガロポリスを育んだ。

このメガロポリス連繋は、広域と地球、住民と物財の交歓を促し、持続観光構造地域化の総合指標の有意性と観光持続機構の地球化の国際認証の有効性を示し、現代日本観光学の扉を開き、交歓、創値探究の道筋を拓いた。

1791年に海国兵談を表した林子平が処罰された翌92年に、露西亜の使節ラクスマンは、伊勢白子の漁民大黒屋光太夫（1751～1828）にイルツクスで会い首都ペテルスブルグでエカテリーナ2世に謁見し、92年に根室に伴い、露西亜と開国を求め、帰国後は、大槻玄沢等と蘭学を振興した。

他方、米国に漂流した土佐清水の漁師、ジョン中澤万次郎（1827～98）は産業革命を興した米英主導の捕鯨船を活かし、香港開港、南京条約締結の前年1841年に、143日の漂流後、救助され、1810年にカメハメハが統一したハワイを経て13歳から10年間、米国で教育、キリスト教を修め、琉球、薩摩を経て24歳で土佐に戻り、54年に日米和親条約や咸臨丸通訳となり、小笠原帰属を主張し、米国で大陸横断鉄道開設の69年に開成学校教授に就任し、有意な持続観光構造、有効な国際認証で観光持続機構を築いた。維新の転機と庶民の偉人の努を顕現した。

第二次世界大戦後の小笠原返還協定は、国連工業開発機構設立、関税一括引下げのケネディラウンド妥結、ローマ教皇とギリシャ正教会会談、米ソ首脳会談で平和が生み出され、明治百年祭が開かれた1968年に締結され、1994年発効の国連海洋法条約締結のアイコンを海洋汚染や沖ノ鳥島を起点とした大陸棚の限界延長申請で、日本海での大和堆、大和海嶺、日本海盆等の海底地形ジオパークの神宿る海構想の伸展、気候温暖化、海面海底変動調査研究の太平洋拠点を生み、大和の風致を刻んだ。

この太平洋、印度洋の平和の海環の結合の閉鎖の総合的指標の有意性と開放の国際認証の有効性は、国家の戦時、有事、平時体制、防衛、防疫、防災の国

家管理、共棲、共同、共生の観光外交を変え、相生の文化を深め、文明を相生した。

中でも、物情の交歓、交流、交換、交易の地域化、地球化の構造、機構と産業技術の革新段階（0－5次産業）、政治、経済、文化、社会、自然の連繋は、新体制創成、瓦解・復興・転換の有意、有効、無益、無効に係り、規定してきた。

有意な総合指標と有効な国際認証で醸成、認定された文明圏の創成、変動、変質は、陸海空の自然、生態、環境を宇宙、地球、地域の視座で人工知能も活かした変容、変革、移動探査の糸口をなした。

精緻な探査は、持続観光構造の総合指標、観光持続機構の国際認証を、文明文化の視座、民族、人類の視点、ナスカ地上図や未確定遺跡を的に流域、定住、自律の海陸、天地、地下の風致に及び、文明の相生を生む相生の文化の源泉を明示した。

前論（2018）で詳述した如く、連担域に、西のインダス、東のガンジス川連担とヒマラヤ山麓からデカン高原南端に向けてのドラウイタ人のセイロン島移動、渤海黄海を出入り口とした河西回廊に向う黄河、長江の2大流域が、四大文明圏とされ、現代観光の有意、有効の座標とされた。

これは、人・物の安全、安定した円滑な移動を可能とした陸路、水路等の建設、保全の科学技術、法令慣習錬磨を促した。

この権威、権力を表徴する風致の地域化が、戦時の侵攻、平時の交易、有事の防疫に留意し、沿道の有意な文化を深め、国際認証、文明開化の有効性を高めた。

文化深化の源泉、文明開化の先端をなすイスラエルベングリオン大学での講演（1996）やイランイスファハーン、イタリアのトリエステ等の講演（1997）で、筆者は、エーゲ海文化、ミノア文明生んだギリシャ人の地中海植民都市形成を強調し、北西辺境のローマ帝国建国、東縁のメディア、バビロニアを背にしたフェニキア、中間のローマに対するカルタゴ（チュニジア）、地中海の西の出口、北のガディス、南のタンジールが織成す地中海文明圏を欧州文明の源泉とし、国際認証基準を論じた。

ローマは、312BCのアピア道、311年BCの水道建設を機に持続の風致と風格を培ったローマ人居留地をスリランカに対峙した南印度に創り、アウグス

ティヌスに遣使し、ローマ帝国が培ったキリスト教を布教させ、相生の文化を深め、文明の相生を促す宗教観光を開いた（宮川2018）。

印度発祥の仏教は、孔孟等儒家思想が定着し、百済の聖王が5仏像、経綸を日本に献じ、仏教を拓いた538年に先駆け、五胡侵入の中国に、外交貿易、宗教伸展で持続の重層的文化・文明圏を創成した、持続観光構造地域化、観光持続機構地球化の適正な均衡は粗千年の文明圏の戦時、有事、平時を超えた覇権確立の防衛、防災、防疫の圏域と係り、価値の有意性を表徴する総合指標と民族と居住に合った風土文化を軸に、価値増幅で文化の有効性を高め、宇宙、地球、地域の自然の変革を超え、持続構造、機構の緩衝構造・可逆機構を育んだ。

安心、安全、安定の文明圏の伸展は、自然の叡智と摂理を体感、体験、体得し、体現する布教、巡礼、遥拝を通し、持続観光構造を地域化し、観光持続機構の地球化を促し、平安と安寧の都鄙を現出した。

トルコアマヤスの歴史地理学者ストラボン（63BC～23AD）の地理誌とエジプトアレクサンドリアの地図学者プトレマイオス（AD83～168）の世界地図の古代文明圏は、この現代持続観光の源泉を涵養し続けた。

現代日本の持続観光の扉を開けた1971年の沖縄返還協定、81年の北方領土の日制定を経た2000年の琉球王国のグスク及び関連遺産群の世界文化遺産指定と、2004年登録の紀伊山地の霊場と参詣道は、霊山の神と参詣の道の緩衝景観が有意な総合指標で持続観光構造地域化と国際認証で観光持続機構有効性を強めた。伊勢志摩国立公園の自然と伊勢神宮の杜と水に繋がれた摂理が、総合保養基地のホテルと西班牙の世界分界協定意義再生の2016年の第42回伊勢志摩サミットの接遇環境を高めた。

持続観光構造の地域化と観光持続機構の地球化の饋還増幅による接遇環境の高揚は、天地の自然と人類を基軸に、伊勢神宮の鎮座を要に自然の叡智と摂理の収斂に誘い、宇宙と地球の関連への関心を深かめた。この探究、体感、体現の場所は、理論・実践の両面で有効な持続観光地球化の機構を育み、次論で聖地の構造に組み込み、有意な総合的指標に誘われた只然の神都神郡計画が有効に発現し易い場所、世界遺産神宿る宗像沖ノ島等で実証し、沿海の平和の海廊、海環、環帯で、その要衝の場所、次元に着目し、その総合指標の有意性、国際

認証の有効性を検証し、相生の文化の深化と文明の相生の関連を論究したい
(宮川1997, 2014, 2017).

参考文献

- 葦津敬之 (2017) 宗像の歴史と未来 Branchi 12 2 - 6p
- ジャン, ゴットマン著・宮川泰夫訳 (1993) メガロポリスを越えて 鹿島出版
350p
- 小田富士雄編 (1988) 沖ノ島と古代祭祀 吉川弘文館 —284p
- 松浦晃一郎 (2008) 世界遺産 — ユネスコ事務局長は訴える — 講談社 311p
- Y.Miyakawa (1980, 81) Evolution of Industrial System and Industrial
Community I, II Science Rep 30-1, 31-1 21~64p, 49~84p
- 宮川泰夫 (1997) 平和の海廊と地球の再生 I, II, III, 297p, 237p, 220p
- 宮川泰夫 (2002) 地域の創成と文明の開化 皇學館出版 438p
- Y.Miyakawa (2007) Locus; Civilisation et renaissance regionale. Sur la
mondeilisation et localization 143-176 in LA Geographies N special
LA`Orbite De LA Geographie De JEN GOTTMN 143-176p
- 宮川泰夫 (2008) 国土の創成と国家の構造 — 辻本哲郎編; 国土形成 — 流域圏
と大都市圏の相克と調和第7章 79~118 技法堂出版
- 宮川泰夫 (2011) 文明と経済の相生 皇學館大學出版部 213pp
- 宮川泰夫 (2012) 文化の深化と地域の革新 皇學館出版 793p
- 宮川泰夫 (2014) 神都の計画と聖地の構造 — 文化の深化と地域の革新; 清水
潔編『神宮と日本文化』皇學館大 506-654p
- 宮川泰夫 (2016) 観光の持続と持続の観光 日本学論叢 6 p15~75
- 宮川泰夫 (2017) 米国メガロポリスの変遷と西岸メガロポリスの変質 — 持続産
業の観光構造と産業観光の持続機構 — 日本学論叢 7 p1~110
- 宮川泰夫 (2018) 持続観光構造と観光の持続機構 — 穢れなき小島国家スリラ
ンカの時空変遷と持続的観光地管理の日本型綜合指標 — 日本学論叢 8
p25~141
- 宮川泰夫 (2019) 三州瓦産地高浜都市観光革新と三河風土文化の醸成 — 東海

道メガロポリスの持続観光構造地域化と観光持続機構の地球化 — 日本学
論叢 9 p1~74

宮川泰夫 (2020) 持続観光構造の深化と観光持続機構の拡充 — 現代観光の学
都と国際認証の時空 — フロンティア東北の震災復興と陸奥の地球文明開
化の杜都 日本学論叢 10 p1~62

須田寛 (2009) 観光 新しい地域づくり 学芸出版 206p

須田寛 (2017) 日本の観光 きのう・いま・あす 交通新聞社新書 262p

西水孜郎編 (1975) 資料国土計画 大明堂 300p

謝 辞

本論は、前論 (Y.Miykawa1980) で述べた如く、1978年のオックスフォード大学での筆者の講義、講演以来、恩師ゴットマン学部長との調査研究で深め、ソルボンヌ大学でのシラクビプリオテーク収蔵記念講演会 (Y.Miyakawa 2007) での発表、ゴットマン生誕百周年記念の米国地理学会で催したシンポジウムで深めてきた地域革新研究の一貫 (宮川2017) である。本論は、科学研究費助成事業基盤研究、15k01972 (平成27年4月~平成30年3月) 観光の持続可能性と日本型指標システムの確立を目指して』と C18k11883『持続可能な観光と国際認証の有効性に関する多面的分析 (2018.4~2021.3) (研究代表者 二神真美) を用いた。二神教授と共に国連地域開発センター以来研究を共にし、国際協力機構理事長賞を得て、退任する共同研究者の前名城大学クマール学部長と筆者の伊勢市都市計画審議会会長としての総合理論、実効実践科学の統合、相生の文化深耕で、文明の相生を促し、研究上多くの示唆を受けた大島憲三国際連合元事務次長、国際平和協力本部事務局長始め、内外の学友の学恩に感謝し、学部開設以来観光学を通し、実効実践日本学の真髄を開示戴いた JR 東海前会長須田特別招聘教授の退任に一連の拙論と共に献じ、深謝します。

本号は、令和二年二月二七日に逝去された現代日本学会初代会長伴元皇學館大学学長の御霊に感謝を捧げ、哀悼の意を表し、現代日本社会学部開設10周年を経て、次段階につなぐ現代日本学の論文として献呈いたします。

Regionalization of Significant Contemporary Tourism Structure and Globalization of Effective Tourism Sustainability To overcome the Human & Natural Crisis

Professor Dr. Yasuo Miyakawa

Summary

The Contemporary tourism has exerted a great influence on the evolution of hosting environment of regional development through the regionalization of significant Contemporary Tourism and the globalization of effective tourism sustainability since my first lectures in the University of Oxford and the Museum of Venice in 1980. Not only the locus but also the iconography of significances of sightseeing Region, Resources, Industry, & Tourist are more important. Considering these regional structure & the global system, we should pay more due regards to the sudden collapses of sustainable tourism. It's because of the changes of time of war, peace and case of emergency, together with the shock absorber and rehabilitation system from the natural & human disasters, such as Pandemic Covid-19, closely linked with the supply chain of Wuhan and the medical treatment of modern Cruiser at the famous gate of Japanese, traditional inbound sightseeing port of Yokohama.

Not only the quick rehabilitation of risk managements, we could not look over the reactivations of regionalization of significant contemporary tourisms structure and globalization of effective tourism sustainability on the natural providences and ethics such as the World Heritage of Island of God in Japan in 2017 and the series of international legal sustainable tourist sights such as the strategic locus as a polar region and a boundary, with natural parks since 1931 in Japan, based on the natural providence and human harmonious culture.

Key Words : Regional Sustainable Tourism & Tourism Global Sustainability,
International Certification Standards & Regional Sustainable Indication,
Expansion of Global Civilization and Evolution of Regional Culture,
Changes of Times & Place-War Time, Case of emergency, Peace Time,
(Defense, Rehabilitation from Disaster, Prevention of Epidemics)